物流現場改善のさらなる普及・推進に向けて

黒川 久幸
東京海洋大学 学術研究院
流通情報工学部門 教授
（JILS 物流現場改善推進委員会 委員長）

7/19 JILS 30周年の集い
「物流現場改善のさらなる普及・推進に向けて」
目次

1.JILS 物流現場改善取組の目的
1)目的
2)全日本物流改善事例大会と物流改善賞
2.これまでの取組の成果
1)物流現場改善推進のための手引書
2)改善ポータルサイト
3)企業の取組把握
4)物流現場改善士資格認定講座
5)物流現場改善事例集
3.現在の取組み
1)JILS物流現場改善メソッド
2)企業認定制度
4.今後の取組み・課題
1)企業の取組把握：アンケートの実施
2)物流現場改善のさらなる普及

1.JILS 物流現場改善取組の目的

1)目的

経営の重要課題であるサプライチェーンマネジメント、ロジスティクスを効率的かつ効果的に機能させ、実質的な運営を司るのは現場である。

スピード、効率化が強く求められている現在、経営その他の環境変化に柔軟に対応できる「現場力」の強化が欠かせない。

そこで、「強い現場」の育成に焦点をあて、会員各社の物流現場改善活動の推進を支援する。

↓

物流改善というマネジメント手法の確立、提供

↓

物流現場が自発的に率先して考え、改善する力をつける

1.JILS 物流現場改善取組の目的

2)全日本物流改善事例大会と物流改善賞

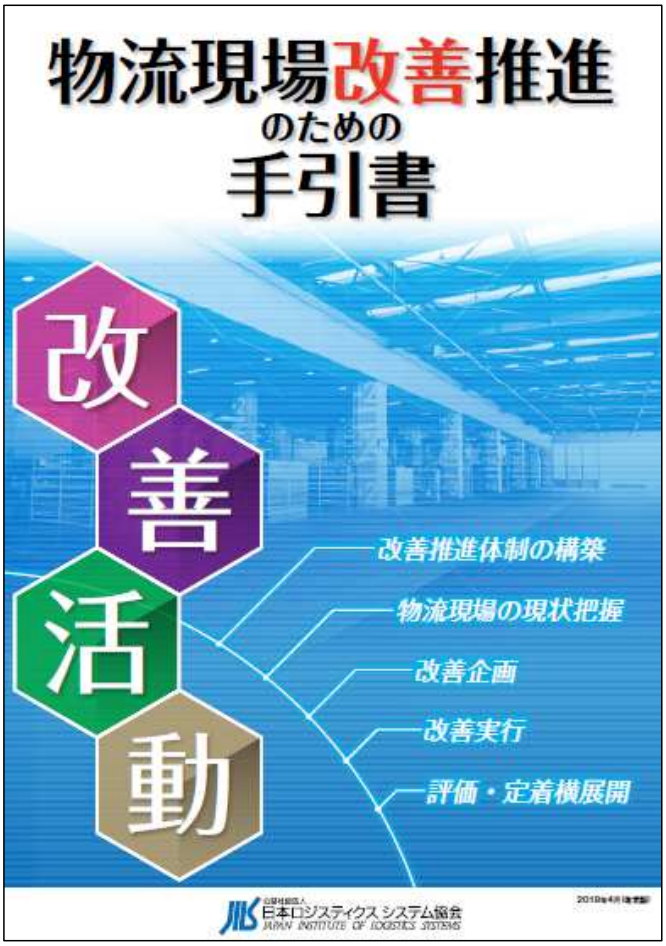
JILSは1992年の設立当初から、全日本物流改善事例大会の実施と物流改善賞の授与を通じて、物流現場改善の普及に取り組んでいた。

全日本物流改善事例大会 2022 会場

物流改善賞 2022 表彰式

2.これまでの取組の成果

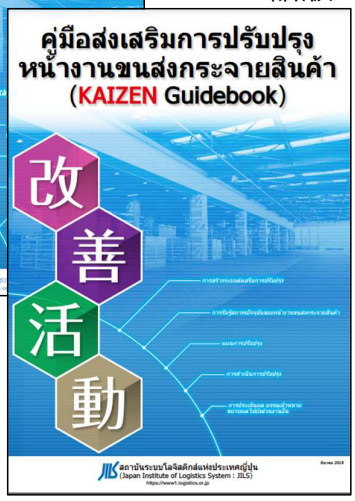
1)物流現場改善推進のための手引書



英語版

ベトナム語版

タイ語版



改善手引書　検索

2.これまでの取組の成果

2)改善ポータルサイト

物流現場改善に関わるJILSの取組情報を発信。

コラム

・物流現場改善のすすめ

手引書

・物流現場改善推進のための手引書
・物流現場で働く中堅管理者（現場主任・リーダー）育成の手引き
・ロジスティクスKPI活用の手引き

人材育成

・物流現場改善士資格認定講座

改善発表会

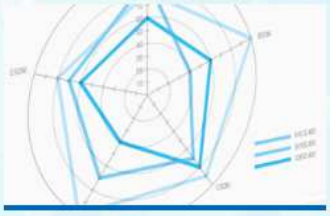
・全日本物流改善事例大会
・物流改善事例発表会

改善表彰

・物流合理化賞
・物流合理化努力賞

データベース

・物流改善事例集



診断

・現場リーダーキャリアアップ診断
・問題発見チェックリスト
・現場活性サイクルチェックリスト

ベンチマーク・調査研究
（各項目を選択ください）

・物流現場改善活動の実態調査
・物流コスト調査
・ロジスティクス経営指標調査・荷主KPI

2.これまでの取組の成果

3)企業の取組把握

物流現場改善活動に関する実態調査アンケートの実施

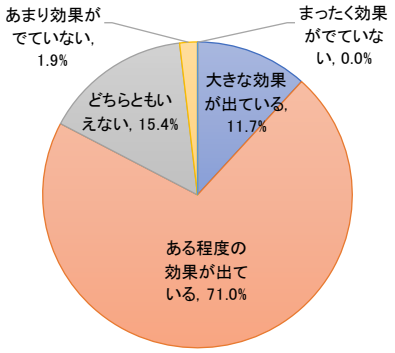
目的	物流現場改善活動の定着と活性化を図るために、企業における改善活動の実態調査を実施し、改善活動の定着と活性化に有効な組織・仕組みや施策、さらには各社の物流現場改善のノウハウ等を把握する。
調査期間	アンケート調査：2017年6月5日～6月21日 ヒアリング調査：2017年7月13日～7月21日
実施方法	下記の対象者に対して、JILS事務局よりe-mailまたは郵送にてアンケートの協力依頼。 アンケートはwebベースで回答
対象者	JILS会員企業(連絡窓口)　798社 JILS各種委員会委員企業　37社 改善事例大会等発表企業　22社　（合計857社）
回答状況	1社1回答 回答社数　188社（回答率は21.9%）

2.これまでの取組の成果

3)企業の取組把握

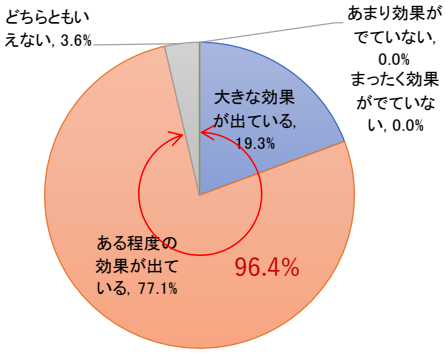
Q1-4 物流現場の改善活動の効果

物流現場改善活動が定着している企業（全社的と一部）の82.7%で、改善効果がでている。全社的に定着している企業では96.4%で改善効果がでており、一部で定着している企業より成果が出ている割合が高く、定着が進むほど成果がでている傾向がある。



N=162

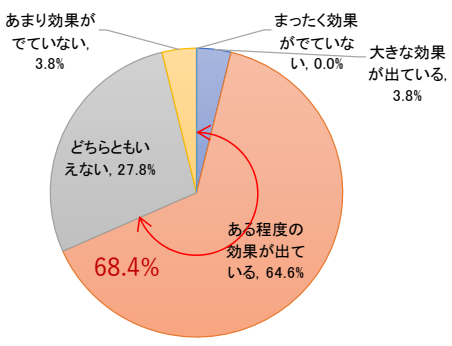
全社的に定着＋一部で定着



N=83

全社的に定着

改善の継続が出来ている



N=79

一部で定着

継続が出来ていない

※その他（情報システム業含む）2社を除く。

出典：JILS『物流現場改善推進講演会資料』2018年2月22日

2.これまでの取組の成果

3)企業の取組把握

物流現場改善とは、輸送、入荷、検品、仕分け、保管、ピッキング、包装、荷役、積込み、出荷、配送という一連の物流センター内業務と付随する業務について、作業員全員が参加し、作業方法、作業内容、業務プロセスを継続改善することで、CS向上（Customer Satisfaction：顧客満足）ならびに従ES向上（Employee Satisfaction：従業員満足）に貢献する活動です。

物流現場改善活動を定着・活性化し、継続的に改善を行っていくための６つの視点を手引書に追記

2.これまでの取組の成果

3)企業の取組把握

物流現場改善活動を定着・活性化させるための６つの視点

2.これまでの取組の成果

3)企業の取組把握

Q5-4 人材育成の教育内容

改善の定着状況		企業数	物流現場改善の進め方	5S	問題発見手法	物流現場調査手法	科学的な管理・分析技法	データ分析
荷主企業	全社的に定着している	30	70.0%	50.0%	36.7%	23.3%	23.3%	40.0%
	一部で定着している	37	67.6%	56.8%	27.0%	13.5%	13.5%	37.8%
	定着していない	2	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	小計	69	68.1%	55.1%	31.9%	17.4%	17.4%	39.1%
物流企業	全社的に定着している	53	75.5%	71.7%	58.5%	18.9%	32.1%	49.1%
	一部で定着している	42	59.5%	66.7%	47.6%	19.0%	19.0%	28.6%
	定着していない	8	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%
	小計	103	65.0%	68.9%	50.5%	17.5%	24.3%	37.9%
総計		172	66.3%	63.4%	43.0%	17.4%	21.5%	38.4%

改善の定着状況		改善の提案書や計画書の作成方法	評価指標の設定	改善効果の把握方法	ICT技術の活用方法	リーダーシップ	コミュニケーション	プレゼンテーション
荷主企業	全社的に定着している	33.3%	23.3%	16.7%	3.3%	40.0%	56.7%	20.0%
	一部で定着している	29.7%	29.7%	16.2%	2.7%	21.6%	37.8%	21.6%
	定着していない	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%
	小計	31.9%	27.5%	18.8%	2.9%	30.4%	47.8%	21.7%
物流企業	全社的に定着している	37.7%	30.2%	34.0%	9.4%	35.8%	41.5%	30.2%
	一部で定着している	21.4%	28.6%	26.2%	7.1%	47.6%	31.0%	23.8%
	定着していない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	12.5%
	小計	28.2%	27.2%	28.2%	7.8%	39.8%	35.0%	26.2%
総計		29.7%	27.3%	24.4%	5.8%	36.0%	40.1%	24.4%

2.これまでの取組の成果

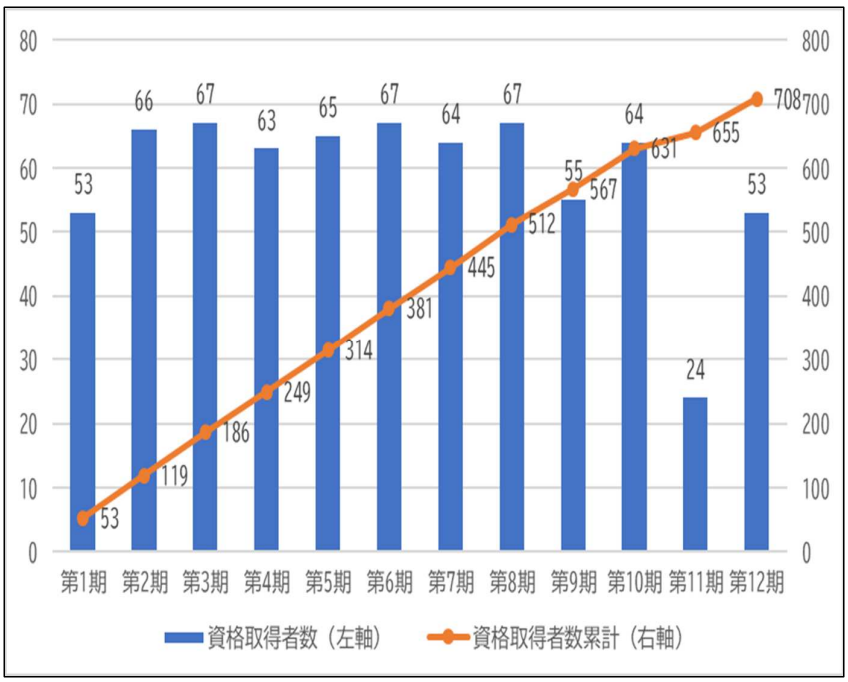
4)物流現場改善士資格認定講座

物流現場改善をデータで議論、
数値で管理し、
改善を実践する
物流現場改善リーダー育成のための
専門講座

2.これまでの取組の成果

4)物流現場改善士資格認定講座

第1期（2010）から第12期（2021）までの期間に、累計で708名の資格取得者を育成



物流現場改善士資格認定講座 資格取得者推移

2.これまでの取組の成果

5)物流現場改善事例集

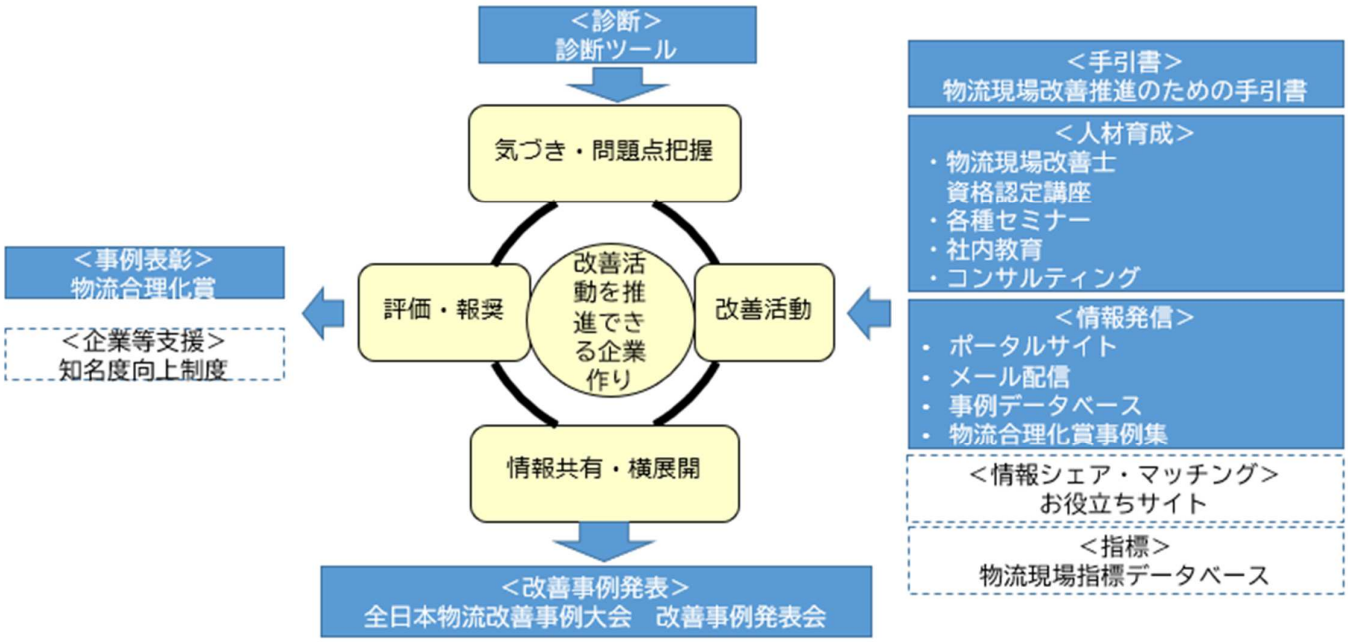
全日本物流改善事例大会において、2007年以降に発表された優秀事例を検索、閲覧できる。公開の許可が得られている 215件 の事例が収録されている。

検索画面

検索結果画面

3.現在の取組み

1)JILS物流現場改善メソッド



3.現在の取組み

2)企業認定制度

(1)目的:

① 物流現場改善に積極的に取り組み、成果を上げる企業等の法人を、 物流現場改善の先進的な法人として認定し、産業界に情報発信し、それらの優れた法人を目指すべきモデルとして産業界に示すことで、物流現場改善の普及・啓発を行う。

② 物流現場改善士や物流技術管理士等を取得した受講者が、講座で学んだことを実務で活かして、成果を出すために、受講後の計画を設定する際の目標の１つとしていただく。これにより、派遣者は受講者に対して講座開始時から目的意識をもって受講させ、資格取得後に目標達成に向けた実践する場を提供していただく。

(2)名称：「物流現場改善優良認定 2022 ダイヤモンド」

※朱字部分は認定年度(西暦)と評価によって異なる

(3) 対象：

企業等（1法人単位）を対象とする。

3.現在の取組み

2)企業認定制度

(4)内容

下記対象事業に対して、内容に応じ付与するポイントを設定し、基準を設けて物流現場改善の先進法人に認定する。なお、認定法人向けにロゴマークを作成し、付与する。

【対象事業】

①物流改善賞ほか関連する賞
②全日本物流改善事例大会
③各地区物流改善事例大会

(5)企業向けポイント設定例

ポイント獲得事例	ポイント数案
最優秀物流改善賞の受賞	3ポイント
優秀物流改善賞、これに準ずる賞の受賞	2ポイント
全日本物流改善事例大会・ 各地区物流改善事例大会の優秀事例選出	1ポイント（全日本物流改善事例大会） 0.5ポイント（各地区物流改善事例大会）

3.現在の取組み

2)企業認定制度

(6)企業の認定方法

①ポイント算出期間：3年間（当該年は1月～12月にて算出）

②認定：

ポイントの算出基準に基づき、別途の委員会にて、物流現場改善の先進企業推挙し、認定を行う。

③評価認定の基準

ポイント数	評価	ポイント数獲得例
10以上	ダイヤモンド	(発表×6＋優秀×2)(発表×4＋最優秀×2)
7～9	プラチナ	(発表×3＋優秀×2)(発表×4＋最優秀×1)
6	ゴールド	(発表×4＋優秀×1)(発表×3＋最優秀×1)
5	シルバー	(発表×3＋優秀×1)(発表×2＋最優秀×1)
4	ブロンズ	(発表×4＋賞なし)(発表×2＋優秀×1)

4.今後の取組み・課題

1)企業の取組把握：アンケートの実施

(1)目的

企業における物流現場改善の活動実態を把握し、さらなる活動の推進のための取り組みに活用する。

(2)実施概要

①実施期間	・８月末：アンケート設問項目確定 ・９月中：回答期間 ・11月中：回答結果集計 ・12月中：集計結果の報告（HP等）
②実施方法	・下記の対象者に対して、JILS事務局よりe-mailにてアンケートの協力を依頼。 ・アンケートはwebベース(グーグルフォーム)にて回答
③対象者	・JILS会員企業(連絡窓口): 923社(6月1日現在) ・改善事例大会/発表会 発表企業: 約20社（会員外企業） ・物流現場改善士資格認定講座受講企業：約20社（会員外企業） 計960社程度 ※１企業１回答とする。

4.今後の取組み・課題

1)企業の取組把握：アンケートの実施

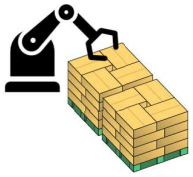
倉庫内業務において活用されている物流ロボット等

輸送 → 入荷 → 検品 → 保管 → ピッキング → 検品 → 梱包 → 出荷 → 配送

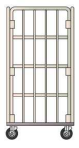
自動フォークリフト
【運搬・移動】

棚卸ロボット
【棚卸】

アーム型ロボット
【デパレタイズ/パレタイズ】
【ピッキング・仕分け】



搬送ロボット
ケース・かご車・棚
【運搬・移動】
【ピッキング】
【仕分け】



ロボット倉庫
【保管】
【ピッキング】

ピッキングシステム
DPS（デジタル表示）
PPS（プロジェクションマッピング）
音声・スマートグラス
【ピッキング】

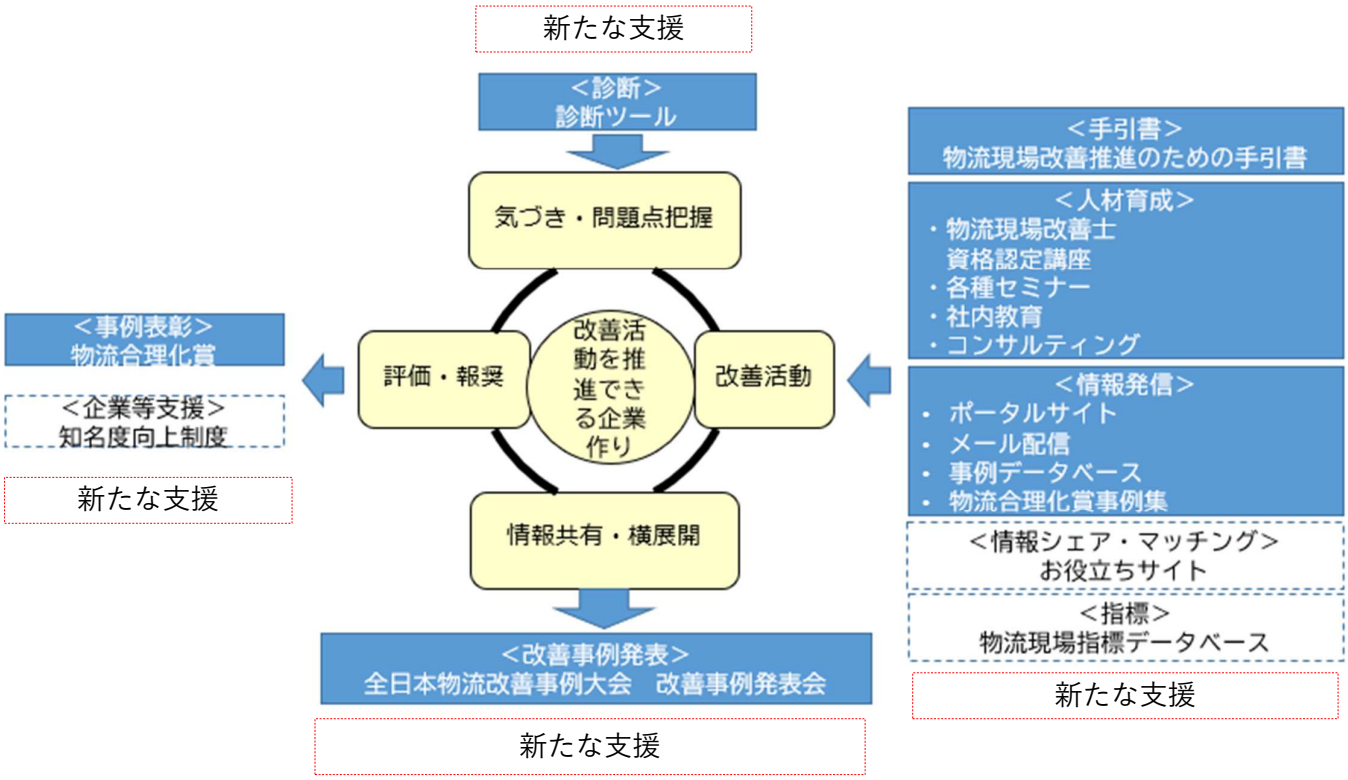
自動梱包機
【梱包】

仕分けシステム
DAS（デジタル表示）
GAS（ゲート開閉）
【仕分け】

RPA（ロボティックプロセスオートメーション）
Googleスプレッドシートなど
【事務処理など】

4.今後の取組み・課題

2) JILS物流現場改善メソッドの充実による物流現場改善のさらなる普及



30th Meta-Logistics 共に創る 持続可能な社会

公益社団法人 日本ロジスティクス システム協会 JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

物流現場改善のさらなる普及・推進に向けて

ご清聴ありがとうございました。